

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270101619		
法人名	有限会社ハーモニー		
事業所名	グループホームハーモニーそが		
所在地	千葉県中央区蘇我4-22-11		
自己評価作成日	令和7年9月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.harmonysoga.com/">https://www.harmonysoga.com/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 NPO共生
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和7年10月7日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○ 個々の生活を尊重し、自由に過ごせる様安全に気を配りながら、支援しています。</p> <p>○ 外気の空気にふれながら、散歩に出かけ気分転換し、四季折々の移り変わりを *感染症 新型コロナ・新型インフルエンザに対しては引き続き感染防止対策を継続しています。* 食事は旬の食材を取り入れて提供しています。</p> <p>楽しんでます。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>当該事業所は、平屋建てで天井から自然光が差し込む明るいリビングを中心に、各利用者の個室が面しており、一つの大きな家族のような温かい雰囲気です。空調には除菌装置を備え、衛生面にも十分配慮されています。「人としての尊厳を大切にすること」を理念とし、特に終末期の対応については、入居時のみならず毎年書面で家族の意向を丁寧に確認し、本人と家族の思いに寄り添っている。職員は互いに協力し、アットホームで落ち着いた環境を維持している。食事時には全員がそろってから箸を取るなど礼節を重んじ、地域や隣近所との交流も大切にしている。運営推進会議には地域包括支援センター職員、町の組長、民生委員、利用者家族代表が参加している。行政との連携にも注力し、国の補助金を活用して3年をかけ非常用発電機を設置するなど防災体制の強化にも努めている。</p>
---

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議、申し送り、日々の会話等で理念に基づいた入居者支援を行えるように、職員に指導を行っています。 * 朝礼時に全員で唱和しています。	事業所理念である「人としての尊厳を大切にすること」を考えを職員全員で共有し、日々の介助や支援に反映している。利用者が自らの能力を活かせるよう、モップ掛けや洗濯物たたみ、テーブル拭きなどに参加してもらい、活力を引き出している。車いす利用者にも歩行介助を行い、寝たきりの方にも起床や食事の支援を行うなど、自立と尊厳を重視した支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに出来る限り参加し、ホームのイベントには、町会長始め、民生委員・近隣の住民に声をかけ参加して頂いています。 * 生き生き体操をコロナ過で中止しましたが、規模を縮小して再開を進めています。	地元の祭りでは、神輿が駐車場で止まり、地域の人々が集まって神官の祈祷を受けたり、職員OBが篠笛を披露するなど、温かな交流が行われている。隣近所との関係を大切に、美容師による理容サービスや駐車場の貸与など地域の協力を得て、利用者は散歩中に住民と挨拶や会話を交わし、自然なつながりが生まれている。今後は「いきいき体操」を再開し、地域住民との活動の場を広げる予定をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に包括支援センター・町会の役員及び民生委員に参加して頂き、入居者の生活ぶりをお伝えし認知症について理解、支援方法をお伝えしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	包括支援センター・町会の役員・民生委員・家族に参加して頂き、サービスの実際、評価の報告をし、其々より有用情報や意見頂きサービス向上に努めています。 * 現在は対面で実施しています。	運営推進会議は、地域包括支援センター、町内会役員、民生委員および利用者家族代表の参加を得て対面で開催している。寄せられた意見は職員間で共有し、支援の質向上や地域との信頼関係づくりに反映している。出席者の中にはIT業界関係者もあり、インターネットを活用した情報収集や採用活動にも役立っている。介護保険事業課とも連携し、地域に根ざした運営を進めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	インターネットで送信されてくる担当部署よりの情報を確認しています。報告を求められる事に対しては滞ることなく報告をしています。不明な点があれば相談を行っています。 * 非常用発電機を市の担当者の指導の下、導入を進めています。	介護保険事業課とは日常的に緊密な連絡を取り合い、通知や報告を迅速に行っている。国土交通省の補助金を活用した非常用発電機の設置にも3年をかけて取り組み、行政の協力的な支援を受けて完成に至った。これにより災害時の対応力が向上し、地域における安心したサービス提供が可能となった。また、Webサイトを活用して行政の最新情報を随時収集している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを職員は研修等で正しく理解しています。入居者の自由意志を尊重し、自由に行動できるように玄関、居室等の施錠はしていません。 * 施設全体で身体拘束廃止をせんげんしています。	代表者が全職員の前で身体拘束廃止を宣言し、職員はその方針のもと、身体拘束廃止委員会で現状確認と周知徹底を行っている。施設の構造で、中央のリビングから全居室を見渡せるため、職員が常に利用者の様子を見守ることができる。玄関や居室の施錠をせず、利用者の自由意志を尊重しながら、安全と自立を両立した支援を実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が高齢者虐待防止関連法について研修を受け、入居者を一人の人として関わる事ができ、虐待が見過ごされていないか常に注意をはらっています。*特にスピーチロックについて職員の理解を進めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等に参加し、制度の理解はしています。入居者に自立支援・成年後見人をつけている方もいますので、活用しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、重要事項については十分に説明をし、納得して頂いております。解約又は、改正等の際も十分に理解、納得をして頂き不明な点については、その都度お答えしています。*自費負担の改定を予定しているが、事前に家族に説明し協力を得て進める予定です。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナウイルス感染症にて運営推進会議の開催が出来ない状態でしたので、書面にて行いました。家族より返答も来ています。昨年は、1回事業所内で開催しています。意見は運営に反映しています。*千葉県相談員が月1回訪問してくれていますので利用者本人の要望を伝えてくれます。	家族からの意見や要望は、運営推進会議や電話連絡を通じて随時聴取し、施設運営に反映している。全家族とLINEでつながり、個別相談や連絡、行事・外出時の様子を写真付きで迅速に共有している。また、千葉県相談員が毎月来所し、利用者の本人の意向や要望を伝えてくれているため、利用者の気持ちを大切にしたい支援に努めている。面会に加え、スマートフォンやタブレットを活用したビデオ面談を実施し、利用者や家族のつながりを大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の全体会議・申し送り等で自由に意見を述べ、ホーム長・管理者はその意見を参考に運営に反映しています。*今年度全般は職員の入れ替わりが激しく、面談は後半に実施いたします。	代表者は、日頃の業務や毎月一回の全体会議を通じて職員の意見や要望を聴き、良い提案は積極的に運営に反映している。現場では介護方法などについて職員同士が意見を出し合い、協力しながら改善に取り組む良好なチーム関係が築かれている。さらに、代表者による個別面談を下期に実施予定であり、個々の職員の声を丁寧に把握して運営改善に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職業能力評価制度を導入し、客観的に評価するよう努めております。キャリアコンサルタント制度を導入し、個々に面接を行い向上の啓発を行っています。*職業能力評価制度は施設独自のものがあるが、専門家と協力しより良い制度に進めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の外内部研修に職員は積極的に参加したり、毎日の介護の実践にて出来ないところは職員同志教えあい介護力アップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修、同業者と交流ができる機会を作り他事業所訪問等の活動を通じて、事業所の向上の取り組みをしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に際し、家族、担当マネージャー等より本人の生活歴、現在の生活状況を聞き取り本人・家族の希望、思いを出来るだけ把握し安心できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、現在家族等が困っていること、不安なこと、要望等を把握して家族等との良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が今必要とされていることを、優先的に対応し、他のサービスについては、相談しながら進めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、日常業務を本人と一緒に生活している者同士と考えて出来る事を一緒に行い、共に過ごし支え合う関係でいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と相談しながら、本人の居心地の良い生活に向けて本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係づくりをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の親しくしていたご近所の方、馴染みの方の面会もあります。懐かしい場所へのドライブも行って昔話しに花が咲いている事もあります。 * 感染対策を行いつつよくできている。	利用者がこれまで大切にしてきた近隣の方や馴染みの知人との交流を尊重し、面会や外出の機会を設けて関係の継続に努めている。家族に対しては、イベント時などにLINEを活用して写真や動画を送付し、利用者の表情や日常の様子を共有することで、家族とのつながりが途切れないよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を大切に、職員が中に立ち入居者同志の会話が弾み楽しく過ごせることができるように支援しています。*入居者個々の相性を見極め対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療的ニーズが高まり、入院された方について、家族を通じて様子を伺ったり面会に行ったりして関係性を維持し、経過の把握に努め相談にいつでも応じられるような体制を取っています。*退所後も家族と連絡を取り関係性を持っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思い、希望、意向に耳を傾け、把握に努めています。困難な時は、相談しながら実現出来るところを見つけています。*10月は比羊神社の神輿に来て頂き、神主による祝詞祈願していただいている。	利用者の思いや意向を尊重し、職員は日々丁寧な関わりを心がけている。中には、感覚に基づいた行動に配慮が必要な利用者もあり、他者の居室への入室や物品の持ち出しといった行動が見られる。本人が好む活動に集中できる環境を整えることで、落ち着いた様子がうかがえる。こうした特性を理解し、尊厳を大切にされた支援が実践されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のこれまでの生活歴の聞き取りをして把握する様にしています。わからない点は、本人・家族より聞き取りを重ねて取っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの1日の過ごし方、精神面、体調面認知症状の進行等現状の把握に常に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全体会議を月1回開催し、入居者について方向性、現状の状態等意見を出し合いそれを介護計画書に生かし、定期的に修正し実現可能な計画書作りを行っています。	月1回の全体会議にて利用者の状況が共有され、介護計画に反映されている。認知症の進行により不安から動き出す利用者には見守り支援を行い、転落事例には家族の同意を得てベッドに2点柵を設け、床に布団を敷いてクッション替わりとするなどの具体的な安全対策が講じられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケア記録に残し、朝夕の申し送り等利用し、問題点、気づき、工夫は職員間で情報共有しながら行っています。実践や介護計画見直しに活かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況変化でその時々新しいニーズに対応できるように柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、活用できることは使わせて頂き安全で豊かな暮らしを楽しむことができる。 *10月には、近くの比羊神社の神輿に来ていただき・祝詞祈願を神主をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診月2回定期的に行っています。以前のかかりつけ医との関係も継続できるように受診の同行を行ったり、連携をとっています。	入居前のかかりつけ医から診療情報提供書を取得し、提携医に切り替えることで医療情報の一元管理を図っている。訪問看護は看護ステーションとの契約に基づき週1回実施されており、提携医と訪問看護ステーションとの関係も構築されて、連絡・連携が密に行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診医療機関の看護師、訪問看護週1回来られ体調異変に早期に気づき、適切な医療が受けられるようご家族と相談しながら方向性を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、家族と共に職員が付添い、本人の情報を医師に伝え初期診断に役立てて頂いています。カンファレンスには、同席し情報交換・相談し状態把握に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	年1回重度化・終末期に関しての話し合いを往診医を交え行っています。そのような場面が訪れた時は、早期に相談を始め、本人・家族の気持ちに添えるよう話し合いを重ねています。チームで支援できるようにしている。	年に1回「私の医療に対する希望」という終末期に関するアンケートを実施し、訪問診療時に主治医を交えた話し合いの場を設けることで、利用者および家族との方針共有を図っている。今年度は看取りの実績が1件あり、終末期を迎えた利用者に対しては、バイタルチェックや声掛け、栄養補助などの支援を丁寧に行い、身体的・精神的な安定に配慮した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を行い、実践力を身に付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域に協力体制をして頂けるようお願いしています。昼夜想定避難訓練には、地域の方も協力して頂き訓練を行っています。入居者の避難の方法を全職員が身につけるようにしている。	防災対策として国の補助金を活用し非常用発電機を設置したほか、11月には夜間を想定した避難訓練を予定しており、近隣住民の参加も見込まれる。住宅街に位置する施設として、自治会への声掛けや日常的な交流を通じた協力体制の構築に努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけを常に注意した対応をしている。 *スピーチロックが身体拘束・虐待につながる事を十分に指導してまいります。	利用者の尊厳とプライバシーの確保に向けて、圧迫的な口調を避けた優しい声掛けを心がけている。スピーチロックは言葉による制しが身体拘束と同様の心理的影響を及ぼし、本人のプライドを傷つける恐れがあるため、職員間で日常的に注意し合っている。自己決定を尊重する姿勢も一人ひとりの尊重に繋がっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活に於いて自己決定を重んじ、選択肢を入居者が持つように配慮しています。 *全職員に自己決定の重要性の理解を図ってまいります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースで、希望に添い無理のない支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服は、職員と一緒に自分で選んで頂いています。わかりやすいように整理してありますので、選びやすくしてあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る家事は、職員と一緒にしています。味付けも味見して頂き入居者の好みの味つけをしています。片づけも出来る方はして頂いています。	車いす利用者が多い中、食事前にテーブル拭きを依頼することで参加意識と仲間意識が育まれ、施設の一員であるという感覚にも繋がっている。清潔な環境が食事への誘導を円滑にし、行事の時には寿司やケーキ、おはぎなどを取り入れ、食の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量に関しては記録し1日のトータル把握をしています。栄養バランスは、管理栄養士が献立をたて、バランスのよい食事になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っています。出来ないところは介助で行うようにしています。月1回訪問歯科が入って口腔内・歯の点検を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表でパターンをわかり、失禁やおむつ使用減らしトイレで気持ち良い排泄や排泄も自立にむけた支援ができるよう配慮している。	紙ベースの排泄チェック表を机の上に置き職員全員が確認できる体制を整え、併せてタブレットにも記録を残している。これにより排便のコントロールが容易となり、おむつ使用量の減少に繋がっている。体操や歩行訓練、水分補給に加え、排便促進を目的にバナナを食べる工夫も取り入れ、排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	活動性や食事に配慮してスムーズに排便ができるよう個々に支援しています。水分量も注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴ですが、入居者は楽しみにしてくれています。その人の希望もあり、個々に添った支援をしています。	入浴支援では、車いす利用者が多く、安全面への配慮からシャワー浴や足浴で対応する場面もある。ある利用者は職員と偶然同じ小学校の卒業生であることが判明し、校歌を共に歌いながら幼少期の思い出に浸る姿が見られ、入浴が心の交流の場となっていた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動性を持たせ、夜間はリラックスして睡眠できるよう心掛けています。良い睡眠がとれるように、室温・寝具等にも配慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の病状を捉え、薬の目的・副作用・用法・用量について理解し、服薬支援をしています。服薬変更時は症状確認を怠りません。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人・家族等より生活歴や好きな事の聴取をして、楽しく1日を過ごせ、気分転換が出来るよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に合わせ午前午後散歩に行っています。車で昔懐かしい場所に向いたり、季節の花を見に行ったりと生活の張りを持たせるように支援しています。	日常的な外出支援として、寝たきり以外の利用者は全員外出の機会を得ており、近隣の公園への散歩を午前と午後に分けて実施している。夏季は暑さにより散歩もままならなかった。その他の外出として、生実川沿いの桜見物や、海を見たいという希望を受けて幕張海岸へのドライブも行われた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で希望があれば家族と相談し、立替えて購入したり、家族が購入してきたりとしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や大切な人にビデオ電話で通話したり手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、季節の花を飾ったり、リビングその他は適温でカラオケの音量も耳触りにならないような音量で居心地よく過ごせるように工夫をしている。	広いリビングの隅に置かれたカラオケセットは、現在では歌唱よりも体操の音源として活用されている。暑さのためテラスの利用は少なかったが、冬場には日差しが差し込み日向ぼっこを楽しむ利用者の姿が見られる。除菌装置も設置され、快適な空間づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置に配慮し、気の合った者同志が思い思いに居場所ができ、穏やかに生活できるように支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各自の部屋は、今まで自宅で使っていた馴染みの家具等を持ち込み、本人が安心して自宅で過ごしているようにしている。	居室には入居前から馴染みのあるタンスや仏壇、写真などが持ち込まれ、使い慣れた物に囲まれることで生活が安定し、夜間もよく眠れる傾向がある。昔の写真や洋服をきっかけに職員との会話が弾み、心地よい空間づくりに繋がっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりができることわかることを活かして安全で自立した生活が送れるよう見守りしながら工夫している。		